２００７年1月7日（日）

帰国報告会資料（カンボジア・家政）

元１６年度１次隊・カンボジア・家政
現職　東京都八王子市立高尾山学園中等部
教諭　小杉智代

１．　カンボジア紹介

（1）言語について

クメール（カンボジア）語が日常的に使われている。英語も観光地においては使えるが、活動先ではクメール語しか使わなかった。（英語を話せる生徒・先生もいるが、数少なく、カウンターパートが話せないのと、私も苦手だったため）市場や大家さんともクメール語しか使えなかった。寺ではクメール語と日本語を話せるお坊さんと日本語で話ができた。

（2）　医療事情

南部では「鳥インフルエンザ」、北部では「デング熱」が流行ることもあったが、私は大病はせず、下痢で６キロの体重減だった程度ですんだ。

（3）　生活事情

カンボジアでは自分で住居を探した後、安全点検を行うため、住環境はとてもよい。衣服はクメールスカート（図１）がカンボジアの女性の服装だが、学校ではよく着るが他の場所では男女とも洋装が多い。食事は米が主食で、それにおかず（図２）が一般的。日本にある食材も豊富で、物価は日本のおよそ１０分の１くらい。

普段の交通手段は自転車かモト（オートバイタクシー）。長距離移動はバスが主。首都プノンペン～バッタンバン（赴任地）は５時間。交通規則を守らない人も多く、逆走もするので交差点での事故が多い。治安状況はよくなりつつあるが、夜には都市部は外国人を狙った犯罪が多い。地方は都市部に比べ少ないが、場所により異なる。

（4）　クメール人の暮らし

カンボジア（クメール）人は農業をしている人たちが多い。仏教徒が多く、正月や盆に寺参りをするなど年中行事や冠婚葬祭を大事にしている。クメール人が好んで話すことはお金の話。日本人が挨拶と天気の話をするのと同じくらい頻繁にお金の話題が行き来する。

図１　クメールスカート・サンポット

図２　クメール料理・揚げ魚と野菜

２．　隊員の活動について

（１）配属機関　バッタンバン中等教員育養成学校（２年制の中高の教員養成学校）
校長、第二校長、教務・事務主任、指導教官と職員で約 70 人。

（２）要請内容

家庭科の指導教官として実習授業（ミシンを使った被服実習・調理実習）を中心に学生を指導するとともに、カウンターパートへの技術移転を行う。

（３）活動の柱と内容

① T1 授業の実施

各クラス週２時間ずつ実施した。１年ではミシンの基礎縫い・食物分野の知識分野を補いながら調理実習を行い、２年ではミシンを使った被服製作と調理実習と知識分野の復習を行った。

② T2 授業の補助

カウンターパートが行う授業を学生・指導者の目線で見学し、実習授業では刺しゅう、編み物などでよりよい方法や新たな方法を紹介した。また、学生が行っている教育実習での授業を見学し生徒に助言するとともに、実習先の先生方とも意見交換を行った。

③ 教室・備品整備

使われていなかった壊れたミシンの修理を行い、生徒増に伴って足りなくなった教室を新たに新設した。また、棚に飾ってあった作品は指導教官のものがほとんどだったため、生徒の作品を飾るようにした。

④ 他州での協力

長期休業を利用して他州の中等教員養成学校を見学し、要望に合わせてミシンの修理や、講義・実習の単発授業を行った。

（４）活動の成果と反省

① T1 授業の実施・・・２００時間以上実施し生徒に還元されたものは多かった。教育実習では学生も実習授業を行っていた。

② T2 授業の補助・・・カウンターパートは新しい技術に対して貪欲に吸収しようという姿勢があったため、私がすることにも熱心だった。授業の中でのことに止まり発展しなかった。

③ 教室・備品整備・・・美しく教室を飾り、形を整えることは校長も推奨していたので成果があがった。形を整えようとする余り、訪問者が来るときだけ過剰に整備を行ったり、元々の備品の品質の悪さが問題であったりするため、根本的な解決にはいたらない。

④ 他州での協力・・・カウンターパートを育てるために行おうとしたが、システム上の問題があり、隊員のみで行うことになったのがとても残念だった。しかし、他州の校長・指導教官・学生には喜ばれたのでよい足がかりとなればと願っている。